

じんけん探訪44

高齢者への配慮  
高齢者の呼び方

個人差はありますが、最近では65歳以上でも働く人が増えており、「老人」や「お年寄り」と呼ばれることに違和感を覚える人も少なくありません。そこで、NHKでは例えば「還暦を過ぎた人」とか「〇〇歳の方」、「高齢者」、「年配の方」などと言い換えているそうです。またインタビューなどでは、あらかじめ名前が分かっている場合は「おじいさん（おばあさん）」と言わず、「〇〇さん」と具体的な名前前で話しかけるように配慮しているそうです（「NHKことばのハンドブック」）。



新しい高齢者観

国連は高齢者を「社会のベテラン」と呼び、貴重な人材だと位置付けています（国連第2回高齢化世界会議・スペイン・



たかが自転車というなかれ

被害者の命を奪ったり、多額の損害賠償を求められたりする自転車の重大事故が後を絶たないため、6月1日から施行された改正道路交通法では、危険行為を繰り返した自転車利用者に、自転車運転者講習が義務付けられました。

主な危険行為

- ①車道の右側を通行するなど、通行場所のルール違反
②歩道・路側帯通行中、歩行者を優先しなかった
③一時停止違反
④信号無視
⑤通行禁止道路の走行
⑥ブレーキのない自転車の運転
⑦酒酔い運転
⑧携帯電話やヘッドフォンの使用、傘さし運転などの不適切な運転をしたり、安全確認をせず事故などの危険を招いた

2002年）。日本でも労働関係法令が改正され、定年が65歳に延長されました。

シルバー人材センターでは高齢者の豊富な経験・知識・技能を生かし、高齢者の社会参加を推進する目的で高齢者にふさわしい仕事を提供しています。香川県シルバー人材センターには8000人が会員登録しています。あなたも高齢者観を見直してみませんか。

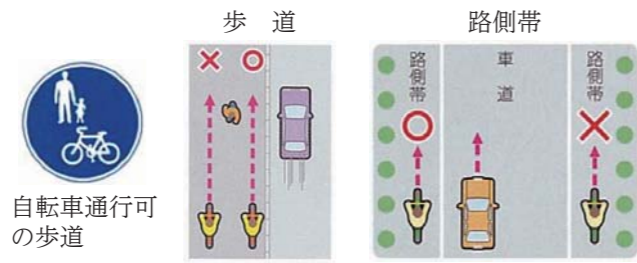
▼問い合わせ 人権課 ☎73・3008

全国一斉 「高齢者・障がい者の人権あんしん相談」強化週間

- 期間 9月7日（月）～9月13日（日）
時間 午前8時30分～午後7時
土・日曜日は午前10時から午後5時まで
電話 「人権相談ダイヤル」 ☎0570-003-110（全国共通・ナビダイヤル）
相談員 人権擁護委員および高松法務局職員
▶問い合わせ 高松法務局 ☎087-815-5311

15歳以上が処罰の対象

危険行為を3年以内に2回以上繰り返すと、自転車運転者講習（3時間、受講料5700円）を受けなければなりません。たとえ中学生であっても、15歳以上が対象です。



歩道 自転車は車両、路側帯を左側通行で。
自転車通行可の歩道 双方向通行可ですが、自転車は車道寄りを徐行し、歩行者を保護します。

▼問い合わせ 総務課 ☎73・3001
自転車通行可の標識がない歩道でも、13歳未満、70歳以上の人が運転する場合は、通行できません。

自主防災 協力隊

帰来自主防災会

帰来自主防災会は、豊中町桑山地区の7区と8区の2つの自治会で組織し、平成22年4月1日に発足しました。

「発足時は、東日本大震災以前ということもあり、地域自主防災は今ほど切迫していない状態でスタートしました」と語るのは、昨年から会長を務める瀧本哲也さん。

後に発生した東日本大震災や土砂災害などを目の当たりにし、住民の防災意識に変化が起こったと言います。年2回実施している訓練では、東日本震災で活躍した自衛隊員の体験講話を通して防災意識の向上を図ったり、応急担架の作成や搬出訓練など、本番の災害



▲消火栓の使い方も学習

まちづくり推進隊 Part.2

『まちづくり推進隊三野』 現在の会員数は94人で、豊かさを求める「産業活力部」、楽しいイベントや美しい生活環境を整える「環境・文化部」、活力ある日々を応援する「健康・福祉部」の3つの部会を柱に活動しています。

今期は、近年増加している休耕田へのソバの植え付けや、里山活動の一環として案内看板の設置を行いました。さらに、認知症や糖尿病を中心とした病気の予防勉強会や、体操、生活改善指導、体力測定など、日常生活にすぐ役立つことを意識し、コツコツと根気よく継続することを目指して活動しています。



▲案内看板を設置

また、夏休み期間中に小学生を対象に実施した「こども寺子屋」は、募集開始から2日で定

を想定した訓練を積極的に取り入れています。

「いつ地震が起きるか分かれれば対処はできません。しかし、前触れもなく突然強い揺れに襲われるとパニックに陥ってしまいます。大切なのは、地震が起きたとき、いかに平常心を保って行動できるかですね」と、事前に訓練を行っておくことが、突然の地震への備えになると言います。また、自主防災組織の増加が、桑山地区全体の防災力の底上げにつながると考え、自分たちの訓練の様子を桑山地区の他の自治会長に見学してもらおう取り組みも行っています。

このほか、被災して避難生活を余儀なくされたときのトイレや着替えなど、個人のプライバシーについて触れ、「今後は女性の目線から意見が出てくることを期待しています。そして、出てきた意見を大切にしておくことが、これからの地域自主防災を進めていく上でのポイントだと思っています」と、女性の自主防災活動への積極的な参加を呼び掛けています。

▼問い合わせ 危機管理課 ☎73・3119

員に達するほどの人気事業です。子どもたちは、講師を務める地域の大人たちの指導のもと、書道や工作などの夏休みの宿題に励み、社会見学や科学実験などの体験学習も行いました。普段はあまり話すことのない地域の人たちとも関わりを持ち、さまざまな体験を通して、子どもたちは感性を磨くとともに新しい発見をして大きく成長しました。



▲寺子屋では書道の指導も

この他にも「つくるフェスティバル」の開催や、里山整備、地元食材を使った健康料理教室、ノルディックウォーク、お助け隊など好評中の事業にも全力を尽くして取り組み、「楽しく元気の出るまちづくり」を目指していきます。皆さんも楽しい活動を始めてみませんか。ご連絡をお待ちしています。

▼問い合わせ まちづくり推進隊三野 ☎73・6228